

中長期目標 (学校ビジョン)	「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切にし社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	---

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 基本的な生活習慣の習得・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の充実・早期の進路決定
----------	---

評価基準 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：方策の見直し (80%程度) (60%程度) (40%程度) (30%以下)
---

年度当初				評価結果（10月）				最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得	○個々に応じた学習意欲の喚起 ○授業の質の更なる向上 ○個別学習室（勉強室）の生徒の学力の向上 ○資格取得率の向上	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着（主に英語・数学）が充分とはいえない。 ○職員間による授業の質に差がある。 ○教室にどうしても入れない生徒数名が個別学習室で学習しているが計画的な質の高い指導が出来ていない。 ○全校生徒が受検する検定試験（漢字検定・パソコン検定）の合格率が40%程度とあまり高くない。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開が図れる。 ○授業の質向上のために、職員の自己研鑽が日々行われ、定期的に研究授業を実施し、指導力の平均値が上がっている。 ○自己の目標の達成のために意欲的・自立的・計画的に学習する姿が見られる。 ○各種検定試験の合格率が50%以上、かつ上位級（2級以上）の合格者数を増やす。	○生徒にとって分かりやすく魅力ある授業づくりに努め、基礎学力の向上を図る。特に1年生は習熟度別の時間を設け英語・数学と苦手な分野を克服し、自信をつける。 ○自己研鑽の評価として様々な資格に挑戦する。研究授業をすることで授業に対する職員の意識を高め、授業の質を上げる。 ○スケジュールを決め、学習のきめ細かい指導を徹底し、学力を引き上げる。 ○資格を取得する意義を浸透させ、意欲を高め、反復練習（表による見える化）によって更に合格率を高める。	○特に1年生は中学校からの復習から入り、徐々に学力が定着しつつある。習熟度別の時間を活用し、読み、書き、計算力が定着し基礎学力が向上してきたが、全体としては追試験を受ける生徒が少なくない。 ○職員の資格取得には至っておらず、また、研究授業は前期は出来ずに終わった。 ○長期・短期のスケジュールを決め、レポートは順調に進みつつある。また、学習計画を立てて前期試験にのぞむ生徒が増えてきた。 ○見える化により反復練習の跡がうかがえ、着実に力を付け検定に挑戦するようになり、合格率も上がってきている。（パソコン検定45%、字検定47%）	B	○追試験者0に近づけるためにも日々の学習を大事に指導していく。毎回特定の生徒が追試験を受けるので、レポート・課題の管理を徹底し、試験に向かう姿勢が身につくよう指導する。 ○研究授業を行い、授業の質を高める。職員全体の共通理解と共通実践による学習指導体制のもとで「わかる授業」を実現していく。 ○レポート以外にもプラスアルファも実施し、学力を上げていく。 ○各種検定合格者を50%まで引き上げるべく、より意識を高め実践していく。	B	○習熟の時間を設定することで、基礎学力の定着が図れた。また、計画的に学習する姿勢が見られ前期試験より後期試験の追試験者が減少した。 ○放課後に登校する生徒も意欲的かつ計画的に学習する姿勢が見られ英検、数検を受検し合格する生徒もいた。 ○パソコン検定の合格率52%であり、目標を達成することが出来た。漢字検定の合格率44%だった。漢字検定は準2級以上にチャレンジする生徒が増えたため合格率が下降した。	○習熟度別学習を継続し、基礎学力の定着させ、試験等で良い結果が出せるよう指導していくとともに意欲的・自立的・計画的に学習していける環境を整備していく必要がある。 ○年間を通しての研究授業の実施が必要。 ○計画的に学習を進めることが出来、結果が出たので計画的の大事さを生徒に伝えて行くことが必要。 ○各種検定で上位級に向かう生徒が増えてきたため、合格をサポートできる体制と意欲を喚起する必要である。
望ましい人間関係の構築	○ルールや公共の場でのマナー・あいさつの向上 ○清掃活動の習慣化	○身だしなみを整えられない生徒・時間を守れない生徒が一部見られる。 ○掃除を人任せにする生徒が一部見られる。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣・時間管理が身に付いている。 ○自らが率先し毎日清掃活動を行っている。	○月に一度、服装検査を実施することで「身だしなみ」の確認を行う。登下校時、毎日職員が由良駅まで行き、公共施設でのマナー・あいさつの徹底を図っている。時間を自身で管理し5分前行動する意識を高める。 ○日ごろの清掃活動の取り組み指導、それに合わせて施設やモノを大切に使用する意識を持たせる。	○暑い時期にはネクタイ・リボンを緩める生徒が見られたが、ほとんどの生徒が身だしなみは良くなってきた。時間に関しては、職員が授業開始5分前には教室に行き、時間を意識させている。 ○職員がいなくても自発的に清掃活動を行う生徒が増えてきた。綺麗で快適な環境を維持することで、施設やモノを大切に扱う意識がでてきた。	B	○身だしなみにしろ時間にしろ緩んでくのは細かいたところからなのでそこを注意しながら指導していく。定例の服装検査を継続的に実施し、生徒一人一人の自覚を促す。あいさつの徹底は継続的に練習し意識づけする必要がある。 ○生徒が自ら周りの生徒に呼びかけ清掃活動を行う文化を作り上げていく。	B	○完璧ではないが身だしなみ、時間管理は出来るようになってきた。まだまだ積極的にあいさつができないので、引き続き指導していく。 ○自分の担当場所が終わったら他のところも手伝う生徒が出てきた。学期ごとの大掃除に対し生徒・職員が熱心に取り組む様子が見られるようになった。	○挨拶、服装、携帯電話の取り扱い等社会ルールやマナーの理解については継続的に根気強く指導していく。 ○自発的に清掃を行えるようになってきたが声をかけながら一緒に行うことが必要。
認め合う力の向上	○信頼し合える関係作り ○クラスでの仲間作り ○学校全体での仲間作り	○他人に対し壁を作り、心を開くことが出来ない生徒が見られる。 ○クラス内での人間関係により欠席が増える生徒が見られる。 ○学年を超えた仲間意識が希薄になっている。	○生徒同士、生徒・保護者と職員同士が認め合い何でも話せる雰囲気がある。 ○人間関係のもつれが原因の欠席を無くす。 ○全校生徒が仲良く、楽しく、協力し合いながら生活している。	○日頃の会話から否定しないことを心がけ、お互いがお互いのことを認め合える雰囲気を作り、定期的な保護者との情報交換に務める。 ○少人数クラスを活かし生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の人間関係を把握する。 ○学校行事・選択授業・体育において縦割りの中で協力して活動していく。	○認め合うことで良好な人間関係が出来つつある。ソフトなタペ（保護者との情報交換の場）を毎月1回設けている。 ○屋休憩時にクラスに一人の職員が生徒と弁当と一緒に食べることでクラス内の様子を把握している。 ○選択授業はかなり自主的に取り組んでいる。体育は以前に比べ自主的に活動する生徒が増えてきた。	B	○お互いに良いところをどんどん褒め合うことで自己肯定感を高めていく。保護者との連携を深め生徒間、生徒職員間との良好な人間関係を築いていく。 ○授業中、休憩中など学校生活の中で得た情報を全職員間で共有し合う。 ○体育は種目を選択できるようにし、主体的に活動できるシステムを導入する。	B	○お互い尊重し合う意識は高まってきている。ソフトなタペの継続によって保護者との信頼は築けてきた。 ○様々な体験活動を通じて望ましい人間関係の構築ができ、対人関係を理由とした欠席は無くなった。 ○体育や選択授業など生徒自らが取り組み、学年を超えた活動ができた。	○お互いの気持ち、思いを尊重する大切さは理解しているが、不用意な言動が相手を不快にすることがあるので、考えて行動できるよう指導していく。ソフトなタペを継続し職員と保護者の信頼関係を積み上げていく。 ○ネットトラブル（特にライン等）で人間関係を崩す可能性があるため、今後特に注意していく必要がある。 ○楽しく学校生活を送る生徒が増えてきたこともあり、居心地の良さから出席日数が全体的に増えてきた。
キャリア教育の充実・早期の進路決定	○幅広い視野・職業観の更なる育成 ○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進 ○進路実現に向けての早目の具体的な行動化	○視野がとても狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。 ○自己理解が乏しい、なりたいたい自分が見えていない生徒が多く見られる。 ○漠然とした目標のため具体的な行動を起こせていない生徒が見られる。	○生徒が幅広い選択肢の中から進路目標を見つけ、その実現のために日々努力している。 ○自己を理解し、理想の自分を見つけている。 ○自らの進路について真剣に考えることで、具体的な行動を起こしている。	○職業人講話を実施することにより社会人としてのマナーの習得や職業理解を深める、と同時に視野を広げる。出前授業・学校見学・ボランティア体験を実施することにより進路に関する選択肢の幅を広げる。 ○定期的に進路面談を実施することにより自己理解を促し「なりたいたい自分」を見つける。 ○就職希望者はインターンシップを実施する。就職セミナー等にも参加し、就職に関する学習の機会（面接練習、履歴書の書き方・求人表の見方等）を増やし、早目の行動を意識させる。また、進路希望者は興味のある学校へのオープンキャンパス等に積極的に参加する。放課後に中央予備校とタイアップし学力アップを図る。	○職業人講話を3回、出前授業を1回出来、生徒たちも多方面に興味を示した。体験授業に参加し進路の幅を広げる生徒も増えてきた。幅広い選択肢があり自己の可能性に挑戦する道が開かれてきている。自身の進路を見据え、ボランティア活動を積極的に取り組む生徒もある。 ○各種検定の取り組み等、行動することにより自信を付け、更なる目標へと向かう生徒が増えてきた。 ○進路希望者はオープンキャンパスに早い時期から参加出来た。また、就職希望者は就職ガイダンスに参加し、就職試験に向かう姿勢を身につけた。また実際に職場見学に行き進路意識を高め、就職活動を行っている。	B	○今後も計画通りに実施していくこと、全校生徒に職場見学を実施し、働くとはどういうことかということも考えさせたい。また、街づくり協議会と連携しボランティア活動に関わっていく。 ○自分を好きになるために検定や生活において自信をつけさせたい。 ○進路希望者は概ね進路を決定している。大学進学希望者は中央予備校と連携して、センター試験対策、模試、面談を行い志望校合格に向けてサポートしていく。 ○また、就職希望の生徒に対して、ハローワークと連携して面談を行い進路を明確にし、決定していく。	A	○職業人講話や出前授業を通して選択肢を増やすことが出来た。 ○自分の長所や短所、得意分野、苦手分野を理解することが出来た。 ○進路を見据え各種検定に意欲的に取り組む姿勢がでてきた。 ○年々、卒業後の進路を考える時期が早くなっており良い傾向にある。進学希望者はA0入試を活用し早い段階で進学先を確定することができた。また、就職希望者に対してはハローワークとの面談やガイダンスを促し、高い意識で就職試験に臨むことができた。	○今後も多種多様な職業人講話や出前授業の継続が必要。 ○キャリア教育、検定等で自己理解、自己肯定感を持つことが出来るので継続していく。 ○進路に向けての取り組み時期に差があるので、特に遅い生徒には個別の対応が必要。就職ガイダンスを計画的に取り入れる必要がある。